

奥の細道むすびの地周辺整備構想

1. 現状と課題

元禄2年（1689年）の秋、俳聖・松尾芭蕉は、約5か月の漂泊の旅である「奥の細道」の旅を大垣で終えた。当時の大垣の俳諧は、大垣十萬石の城主・戸田公の文教奨励もあって、同門で旧友の谷木因や大垣藩士を中心に盛んであったが、芭蕉の4回にわたる大垣への訪れは、大垣俳諧に新風を吹き込んだ。

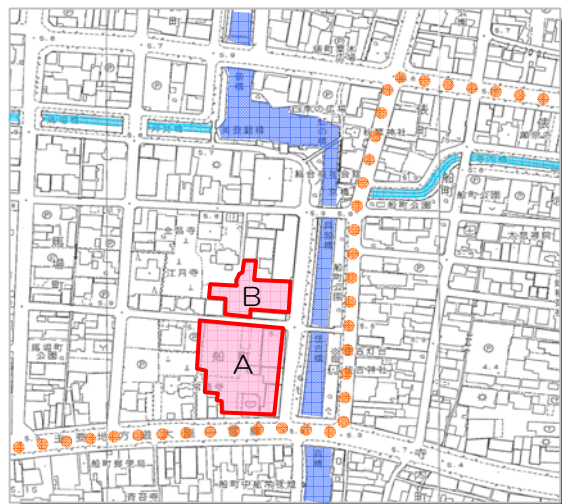
一方、大垣市は、良質で豊富な地下水に恵まれ、古くから「水の都」と呼ばれている。奥の細道むすびの地周辺には、大垣城の外堀であった水門川が流れるとともに、かつて桑名までの重要な水運の拠点として隆盛を誇った船町川湊跡があるなど、水からの恩恵による「水の文化」が育まれてきた。

こうした中、奥の細道むすびの地をはじめとする大垣市の中心市街地は、長い歴史の中で文化や伝統を育んできた「まちの顔」であったが、近年のモータリゼーションの進展、郊外型大規模小売店舗の立地などにより、その拠点性が低下している。

このため、中心市街地の活性化に向け、これまで育んできた文化の薫り高い大垣の個性を生かし、大垣市の歴史と文化が息づく船町・美濃路界隈であるとともに、俳聖・松尾芭蕉が奥の細道の紀行を終えたむすびの地周辺に、憩いと賑わいの空間を整備する必要がある。

2. 対象区域

本構想の対象区域は、大垣市の歴史と文化が息づく船町・美濃路界隈であるとともに、俳聖・松尾芭蕉が奥の細道の紀行を終えたむすびの地である水門川沿いの土地（図のA及びB：約5,500㎡）及びその周辺地域とする。



(参考)

区分	面積
A	3,879.96 ㎡
B	1,563.43 ㎡
合計	5,443.39 ㎡

3. 整備目標

(1) 中心市街地の活性化

近年のモータリゼーションの進展、郊外型大規模小売店舗の立地などにより、本市の文化や伝統を育んできた「まちの顔」である中心市街地の拠点性が低下している。シンボリックな拠点の一つとして整備を進め、回遊性のある新たな賑わいを創出し、中心市街地の活性化を図る。

(2) ふるさと・大垣への誇りと愛着の醸成

大垣市では、これまで歴史・文化の保存・顕彰に取り組んできたが、数多く存在する歴史的・文化的資源の価値が市民に十分に理解されていない。大垣市の歴史・文化や先賢を顕彰することで、ふるさと・大垣への誇りと愛着を醸成する。

(3) 観光・交流産業の促進

大垣市では、これまで奥の細道むすびの地や大垣城を中心として観光・交流産業の促進に取り組んでいるが、観光・交流資源が点在しているため、集客力を弱めている。西美濃地域をはじめとする広域的視点に立って、中核的拠点を整備し、観光・交流を促進する。

4. 整備コンセプト

大垣の歴史と文化が息づく憩いと賑わいの空間の創出

～ 郷土の歴史・文化・風土・先賢の学習空間と

観光・交流のゲートウェイとして ～

本構想では、奥の細道むすびの地周辺を「歴史と文化の場」及び「観光・交流産業促進の場」として、次の3つの方針で整備を進める。

(1) 船町地区全体の整備の核づくり

船町地区は、美濃路や中山道などの街道の陸運と水門川や揖斐川水系の水運の結節点である船町川湊を中心に発展し、江戸時代から交通の要衝として産業・情報の集積化により、大垣宿の西の玄関口として機能してきた。

そうしたことを日常の生活文化に生かしながら、一層の交流促進による賑わいを創出するため、美濃路周辺の修景整備など、船町地区全体の再生に向けた拠点として、奥の細道むすびの地周辺を整備する。

(2) 中心市街地への市民及び来訪者の回遊性を誘発する拠点づくり

大垣市の中心市街地には、奥の細道むすびの地はもとより、大垣城、美濃路、大手いこ井の泉などの文化・交流資源のほか、大垣市及び西美濃地域の「商業の顔」である中心商店街がある。

奥の細道むすびの地周辺は、かつて、美濃路で言えば西の玄関口、水運で言えば南の玄関口でもあり、中心市街地の回遊性を誘発する拠点として、奥の細道むすびの地周辺を整備する。

(3) 西美濃全域フィールドミュージアム化のゲートウェイ機能の整備

船町地区は、大垣市の中心市街地だけでなく、大垣市内全域から西美濃地域全体にいたるまでのゲートウェイとしての役割を果たす立地条件が備わっている場所の一つである。

西美濃地域をはじめとする広域での歴史・文化、観光・交流産業促進の拠点として、奥の細道むすびの地周辺を整備する。

5. 整備機能

大垣の歴史と文化が息づく憩いと賑わいの空間の創出に向け、奥の細道むすびの地周辺に次の機能を整備する。

(1) 歴史と文化の場の整備

①奥の細道むすびの地記念館の整備

「奥の細道」の旅を大垣で終えた俳聖・松尾芭蕉をはじめ、旧友で大垣俳壇の先駆者・谷木因などの先人の足跡を紹介する。

②先賢館の整備

船町はもとより、郷土・大垣市の歴史や文化・芸術を築き上げた先賢の偉業などを広く紹介する。

③無何有荘大醒櫨の復元

全昌寺へ移築後に解体保存されている大垣藩藩老・小原鉄心の別荘であった「無何有荘大醒櫨」を復元する。

(2) 観光・交流産業促進の場の整備

①インフォメーション館の整備

西美濃全域フィールドミュージアム化のゲートウェイ機能としてのインフォメーション館を整備する。

また、大垣観光案内所を移設し、観光スポットなどの総合案内や各種イベントを実施する。

②観光・交流館の整備

お休み処（ラウンジ）、土産物や名産物の販売施設などを整備する。また、市民によるまちづくり活動など、地域固有の活動をサポートする多目的施設を整備する。

③イベント広場の整備

自己実現や生きがいを実感できるかがやきライフ活動の拠点として、多くの市民が交流するさまざまなイベントに使用できる広場を整備する。

（３）その他周辺整備

奥の細道むすびの地の雰囲気醸し出す周辺整備を進めるとともに、自家用車や観光バスでの来訪者のための駐車場を整備する。また、地域の歴史・文化を生かした事業を展開する。

○周辺道路の遊歩道化

○川湊の風情の修景化（水門川の護岸修景）

○リバーサイドの修景化（水門川左岸、住吉公園の修景）

○駐車場の整備

○川舟運行の試み



- | | | | | | | | |
|---|-----------|---|------------|---|---------|---|-----------|
| 1 | 施設ゾーン | 2 | イベント広場 | 3 | 駐車場 | 4 | 周辺道路の遊歩道化 |
| 5 | 川湊の風情の修景化 | 6 | リバーサイドの修景化 | 7 | 川舟運行の試み | | |

6. 中・長期的な課題

大垣市総合福祉会館までを将来的な整備区域として、さらなる推進を検討する。